

2020東京オリンピック スポーツ対談
スポーツを食い物にした
五輪と電通
春日良一 玉木正之



玉木 東京2020五輪組織委に
関する贈賄事件の捜査が広がり
続けてますが、春日さんは事件の
一報を聞いたとき、どう思われま
したか？

春日 私が最初に思ったのは竹田
恒和元組織委副会長（元JOC会
長）のことですね。フランスの司
法当局は、ロシアがドーピング疑
惑を揉み消すために世界陸上連盟
のラミン・デアック元会長へ渡し
たカネの流れを調査していた。す
ると東京五輪招致委からのカネの
流れも発見。招致委の理事長だっ

た竹田氏からデアックへのカネの
流れを疑った。その結果、竹田氏
は逮捕を怖れて外国へ出られなく
なり、JOC会長とIOC委員も
辞任しました。この一件では日本
の司法は動かず、そのうちデア
ックは去年の12月に亡くなりました
が、息子のパパマツサタ・デア
ックが生きていてフランス当局は捜
査を継続。今回の元電通専務の高
橋治之氏の逮捕が、この事件につ
ながるのかどうか？ 私が最初に
頭に浮かべたことはそれでした。

玉木 東京五輪の前にも、リオ五
輪招致委の会長で組織委員長も務
めたカルロス・ヌズマンが、デア
ック親子に約2億円を渡して五輪
開催地投票のアフリカ票の取りま
とめを依頼したことを、リオの司
法当局が贈賄と認定して逮捕。一
審で禁固30年9カ月の判決が出ま
した。それと同額のカネが日本の
招致委からも渡っていた。

春日 リオの場合はデアック個人
への露骨なカネの手渡しでした
が、東京五輪招致委はブラック・
タイディング社という会社を通
し、カネがデアック親子に渡った

なりません。またロス五輪では、
ユベロスばかりが目立っています
が、じつはUSOC（アメリカ合
衆国オリンピック委員会）にジョ
ン・クリムスキーというパンアメ
リカン航空社長（当時）が専務理
事であり、抜群のマーケティング
センスを発揮しました。五輪マー
クの使用権、一業種一社でスポン
サー料を引き上げるシステム、の
ちにTOP（The Olympic
Partner）と呼ばれる

る、特別な企業だけにオリンピック
クのシンボルを使わせるシステム
などを創り出し、ロス五輪を成功
させたわけです。
玉木 ロス五輪の2年前に電通は
アディダスと共同でISLという
会社を作り、ロス五輪でコタック
を出し抜き富士フィルムをスポン
サーにするなど、オリンピックビ
ジネスに参入し始めますね。

春日 当時の電通の中心人物は服
部庸一という人物で、芸能界のプ
ロダクションビジネスのやり方を
スポーツ界に持ち込んだんです。
その服部氏のやり方を横目で見て
いたのが高橋氏だったわけです。

かどうかは不透明です。組織委員
事として高橋氏が自分のコンサル
会社「コモンズ」を通してカネを
受け取った容疑で逮捕されたの
と、よく似たやり方ですね。

玉木 今回の事件は、IOCのオ
リンピック商業化の問題と、日本
国内のスポーツ界の問題に分けて
考える必要があると思います。

春日 そこが肝心だと思います。
今回の高橋氏の一件は彼個人の特
異な問題として捉える必要があり
ます。オリンピックの商業化、ス
ポーツ・マーケティングの抱える
問題とは異なる視点で、デアック
の収賄事件と同様、一時代前のス
ポーツビジネス揺籃期の古い体質
の事件として捉えるべきですね。

玉木 五輪の商業化は1984年
のロス五輪からだとされています
が、商業化自体が問題だとは言え
ない側面がありますね。

春日 はい。ロス五輪の4年前の
80年モスクワ大会が、ソ連（現ロ
シア）のアフガン侵攻で、アメリ
カのカーター元大統領が中心にな
って西側諸国約60カ国がボイコッ
ト。その報復としてロス五輪を東
らね。

玉木 02年の日韓ワールドカップ
でも彼は少々奇妙な動きをしま
す。韓国と開催国を争っていた日
本はFIFAのアベランジェ会長
と手を組みW杯招致に動いたの
に、高橋氏は当時事務局長のブラ
ッター氏（後の会長）に近づいた。

春日 あの日韓大会も高橋氏の手
柄のように語られています。単
独開催を望んでいた日本としては
招致に失敗したわけです。実際、
開催国決定（96年）の投票直前の
票読みでは、欧州サッカー連盟を
中心に反アベランジェの動きも強
くなり、韓国のほうが上回ってい
た。そこへ高橋氏が加わったのは、
ある意味先見の明があるとも言え
ますが、韓国が一国開催は無理だ
と言い出して、それで日韓共催に
なったのです。

玉木 当時の世界のサッカー界
は、たとえばW杯の90年イタリア
大会では完全にイタリアのマフィ
アが動かしていたという話を電通
に勤めていた友人から聞きました

側諸国がボイコット。オリンピッ
クは政治の材料に使われ、国際政
治に翻弄され、存続が危ぶまれる
までになりました。

玉木 おまけに76年のモントリオ
ール大会がオイルショックから巨
額の赤字を計上。84年大会の開催
を予定していたイランにイスラム
革命が起り、パレビ王朝が倒
れて五輪の開催を望む都市がなく
なり、IOCは過去（32年）に開
催経験のあるロサンゼルスに開催
を打診。ロス市議会は税金を1セ
ントも使わない条件で開催を承
諾。そこにピーター・ユベロスと
いう辣腕の経営者が現れ、テレビ
の放映権料やスポンサー料を値上
げし、聖火リレーも有料にして、
約束どおり税金を全く使わず巨額
の黒字を計上。すべてアメリカの
スポーツ団体や慈善団体に寄付さ
れて大成功となりました。

春日 ロス五輪は経済の力によっ
て政治の介入を阻止し、独立した
運営ができることを示したという
大きな意味を持つ大会となりました
。その後、紆余曲折がありまし
たが、この歴史的意義を忘れては

た。日本のスポンサー用のチケッ
トを受け取るのに、彼は現金を詰
めたアタッシュケースを手錠で手
首に繋いでローマの裏通りの指定
された場所へ行き、同じようにア
タッシュケースに詰めたW杯のチ
ケットと交換した。周囲には黒
い背広の下に、拳銃を持っていそ
うな男たちがいて……（苦笑）。

春日 当時の世界のスポーツ界は
サッカーがブラジルのアベランジ
エ。世界陸上競技連盟（現在のW
A）会長がイタリア人ネビオロ。
IOC会長がスペイン人サマラン
チ。各国国内オリンピック委員会
連合（ANOC）会長がマリオ・
バスケス・ラーニャというメキシ
コの大富豪でした。

玉木 ラテン・マフィアが世界の
スポーツ界を生耳していると言わ
れた時代に、そういう世界へ高橋
氏は入って行ったわけです。

春日 私は98年の長野冬季五輪の
招致にJOCから特命参事として
派遣され尽力しましたが、当時の
高橋氏はオリンピックの世界では
まったく無名でした。01年にスキ
ー連盟の専務でJOC会長だった